62　占領期の特設旧制高校，東洋高等学校（理科乙類）その3（終）

永藤　欣久
東洋学園大学 東洋学園史料室

占領期の医療・学制改革でB級と判定された東洋女子歯科医学専門学校に特設旧制高等学校として併設された東洋高等学校について，序説を2012年に第40回日本歯科医史学会で，校地，施設，学科課程，教員について2013年に医史・歯科医史合同学会で報告した．医学部進学課程の理科乙類のみが設置された特設高等学校卒業生の主な進路は旧制医科大学であり，在籍した学生とその進路については本学会に報告する．

同校は1947（昭和22）年7月10日に設置が認可され，文部省は同月19日にこれを告示した．8月23・24日に入学試験を実施し，現存する1948年度入学案内では一日目の筆記試験（国語，英語，数学，物象），二日目の身体検査のほか，卒業生の記録では口頭試問があった．

文部省第75年報（昭和22年度）によれば志願者は男子133名・女子13名，入学は男子67名・女子13名，計80名である．1948年度の志願者は同第76年報で男子140名・女子13名，入学は男子80名・女子6名，計86名，進級した第2学年が男子73名・女子13名，計86名となっており，2学年計172名が在籍した．福岡県立医学歯学専門学校医学科から転換した同県立高等学校の記念誌（2000年）によれば同校の1948年度在籍者数は168名で，僅差であるが東洋高等学校は特設高校中，最大規模となっている．なお，同じくB級判定の日本女子歯科医学専門学校に併設された日本高等学校が同年度120名，A級校では東洋高校に隣接する千葉県千葉郡津田沼町藤崎の順天堂医科大学予科が122名，同県市川市菅野の東京歯科大学予科は349名である．

1948年度入学の2回生は学制改革の経過措置により，他の旧制高等学校と同様に1年次修了で学籍を抹消し，生徒は新制大学に転じて卒業は1回生のみである．記念誌『ならしの』（1994年）に収録された1950年3月12日付発行の東洋高等学校文化研究会『文化』第9号（終刊）掲載の名簿では，男子62名・女子9名，計71名になっており，うち男子1名（死亡か）を除く70名が卒業した．

卒業時の名簿に記された住所を帰省地と見なせば，生徒出身地は山形県を除く北海道・東北8名，関東52名，中部（長野，静岡，愛知，三重）5名，大阪1，香川1，広島2，山口1，長崎1名で，立地する千葉県の21名と東京都19名を除く表日本の各県から1～3名と広く分布しており，旧制高校で常態化していた収容力不足による進学難を反映していると言えよう．

70名中，医科大学への進学は同窓会ならしの会の名簿と聴き取りにより，24名が判明している．内訳は札幌医科大学5名，東京医科大学3名，日本医科大学，名古屋女子医科大学，奈良県立医科大学が各2名，以下各1名が弘前医科，前橋医科，松本医科，長崎医科，熊本医科，順天堂医科，昭和医科，東邦医科の各大学に進学した（浪人の場合は新制で入学のケースもある）．進学先不明の医師2名を含めた医科大学進学率は34%である．

歯科大学への進学は東京医科歯科大学歯学部1名，東京歯科大学4（うち女子2）名，日本歯科大学5（同2）名の計10名（14%），薬科は昭和薬科大学3名（卒業後の薬局従事者は陸軍で薬剤の軍歴がある者を含め4名），ほか東京工業大学1名（卒業生総代），私大文系6名，就職13（教員7，民間企業等6）名，家業及び不明13名で，医歯薬合計は53%である．

2回生まで卒業した福岡県立高等学校では卒業生145名中，医科大23名（16%），歯科大84名（58%）で，医歯の比率が大きく異なる．これは1949年度に新制九州歯科大学を設置した福岡県と，資金難から歯科大学を設置できず，女子短期大学（英語科）に転換した東洋との状況の相違と，そのような（背水の）状況下で行った教育，受験指導の反映であると考える．